

研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

E-mail : ishikai@wakayama.med.or.jp

令和5年10月発行

医師会って何？ (第1弾)

医師会の役割は2つあります。一つは「国民の生命と健康を守る！」こと。二つ目は「医師の医療活動を守る！」ことです。

医師会は任意加入団体ですが、現在全医師

の半数以上が所属しています。医師会は3層構造になっていて、令和4年11月時点で、郡市区等医師会に206,213人、都道府県医師会に191,146人、日本医師会に173,761人、所属しています(図1)。

医師会って開業医の会では？と思っている方も多いかもかもしれません。日本医師会の開業医の割合は39.9%。勤務医は9万人以上が所属しており、52.3%を占めます(図2)。日本医師会では、是非若い皆様に参加をお勧めします。医学部で学んできた医学は「科学」であり、国民に提供している医療は「制度」です。制度にはルールがあり、人によって作られています。この人の作るルールに現場の意見を反映させるために、医師会は動いています。

現場に生きている我々の意見を聞いてもらうためにはどうしたら良いと思いますか？「国民の生命と健康を守る！」ために、日々活動しています。地域に根差した医師会の活動(図3)を見て下さい。地域の時間外・救急対応や行政・医師会等の公益活動、地域保健・公衆衛生活動、多職種連携など多岐にわたっています。この活動なくしては、地域の医療は成り立ちません。毎日の活動の中でも、医師一人一人が深く医師会活動に関わっていることがわかります。この地道な活動の積み重ねの中で、「もっとこうしたらいいのに。」「これはおかしいのでは？」といった意見を郡市区等医師会でまとめ、県医師会で話し合い、日本全国レベルであれば、日本医師会から医療政策提案へと進んでいきます。一人でつぶやいても何も変わらないけれど、医師会で意見をまとめていくと動いていきます。現場の声は命です。しっかりと、医師会が受け止め進めて行きます。

入会ご希望の方は、和歌山県医師会
電話 (073) 424-5101
FAX (073) 436-0530
E-mail ishikai@wakayama.med.or.jp までご連絡を。

図1 3層構造の医師会組織



・3層の医師会は、それぞれ独立して運営されています
・現在の規約では、都道府県医師会に入会するためには郡市区等医師会会員であること、日本医師会に入会するためには都道府県医師会会員であることが必要

図2 日本医師会 会員数 173,761人

令和4年12月1日現在

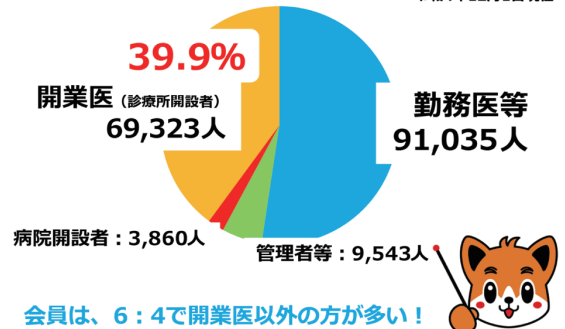


図3 地域に根差した医師会の活動

1. 地域の時間外・救急対応	平日夜間・休日輪番業務、地域行事の救護班、在宅当番医、休日夜間急患センター、電話相談業務など(災害時には救護所・避難所への巡回診療、感染症拡大時には検査センターへの出務など自らの地域を守る活動)
2. 行政・医師会等の公益活動	医師会・専門医会・自治会・保健所関連の委員、警察業務への協力、防災会議、地域医療に関する会議、地域ケア会議の出席、障害者認定審査会、介護保険認定審査会など
3. 地域保健・公衆衛生活動	母子保健、乳幼児保健 0歳6か月児健診・3歳児健診、学校保健(学校健診、学校医活動)、学校健康教育(性教育、がん教育、禁煙・薬物教育等)、産業保健(地域産業保健センター活動、職場の健康相談、産業医活動)、事業主健診(特定健診・特定保健指導)、高齢者保健 高齢者健診・認知症健診、予防接種(定期・その他)、がん・成人病検診、市民公開講座(健康講座・介護教室)、精神保健、健康スポーツ医活動など
4. 多職種連携	訪問診療等の在宅医療ネットワークへの参画、介護保険関連文書の作成(主治医意見書等)、多職種との会合(ケアカンファレンス等) ACPなど
5. その他	看護師・准看護師養成所、医師会共同利用施設への参画、高齢者の運転免許に関する診断書の作成、成年後見人制度における診断書の作成、死体検案、医療DX、医療GX、学術活動、高齢者・障害者施設への対応など

それぞれの医師会が医療現場を代表して、対応する行政に協力・折衝をしています

研修医の先生方へ、新宮市の一開業医より

谷地内科医院

谷地 雅宏



私は昭和61年に和医大を卒業しました。当時の卒業研修は自身の希望のもとに研修先を好きな期間選ぶストレート方式でした。まず内科全般の経験をしたいと思い、紀北分院内科から始めることにしました。紀北分院は当時内科、外科を始め多くの診療科で構成され、内科は郷里(新宮市)出身の大畑教授がおられました。血液や呼吸器を専門とされる教授門下の先生方に加え、消化器内科、循環器内科、代謝内科の各医局から出向されている助手の先生方で構成されていました。研修期間の多くを紀北分院内科で過ごさせていただきました。病院から100m程の距離に独身寮と呼ばれる宿舎があり、救急患者や受け持ち患者の急変等あれば我々研修医はオン・コールで呼ばれました。医局と病棟と独身寮で毎日が終わるという生活でしたが、他の研修医の先生方と一緒に机を並べ過ごした期間は、今も記憶の片隅にあり、ふとした瞬間に蘇ることがあります。朝、夕と病棟点滴に周り、準夜勤終了後には夜勤看護師と一緒に点滴詰めを行い、仕事が終

わったスタッフと夜食を食べに出かけるような毎日でした。働き方改革の趣旨に反する不健康な生活パターンでしたが、見ることに、聴くことに新しく、学生時代の不勉強を反省しながら、毎日を過ごしていた記憶があります。当時の研修環境は、多くの専門の先生方から医局を超えた指導を受ける事ができる、恵まれた環境下での研修生活でした。その後、東京や埼玉県の病院で2年足らず勉強させて頂き、分院に戻った後は主に消化器疾患に携わりましたが、地域病院としての側面もあり循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病等様々な疾患患者を受け持つ機会が多く、多疾患のクリニカルカンファレンスに臨むことができました。多くの疾患を勉強させていただく中で経験を積むことができ、これが現在の礎にもなっているものと考えています。大畑教授は退官後、郷里に戻られました。不肖の弟子の行く末を案じてくれたものと思いますが、開業当初から通院していただき、米寿を迎えられた今となっても30分あまりの距離を歩いて当院に通院していただいています。分院内科時代は医道の師として、現在は人生の師として教えをいただいております。

ここで、新宮市について御紹介いたします。古の頃から熊野詣の歴史があり、蘇りの地ともされています。また、海青し山青し空青し日は輝かにと謳われているように自然に恵まれた地域です。昔は木材の集積地として栄えた時代もあったようですが、残念ながら時代の波に押しされ、高齢化が進む人口減少の地域となっています。医師不足は基幹病院の問題だけでなく、開業医も高齢化しており、当地域は若手医師の着任を強く切望しています。陸の孤島のいわれもあり、私が若かりし頃は新宮から和歌山市まで車で5、6時間はかかりました。今、高速道路の延伸により、3時間程度となり、将来は高速網が更に開通することでより短い時間になるかと思われま。さすれば和歌山市からでも日帰り圏内に入ることになります。医師不足問題は遠方、長時間というハードルが少しはずれることで、よりなじみやすい働きやすい地域となり解決に向けた一助になるものと期待しています。当地域の基幹病院での研修もまた、私が経験した紀北分院での研修と同様の研修ができると考えます。ジェネラリスト、スペシャリストに関わらず、医師にはとても働きやすい環境ではないでしょうか。また地域医療では在宅医療や僻地のオンライン診療、他職種との更なる連携等たくさんの課題がありますが、こうした課題の解決に向けて取り組んでいけることも魅力の一つです。

さらに田舎の利点をあげるとすれば、自然の中で趣味を拓げ豊かな自然環境を楽しむことも可能です。人口密度の少ない当地では、コロナ禍にもかかわらず比較的少ないリスクで余暇を楽しむことができました。休みの日を利用して当地の風景写真撮影や野鳥観察に出かけることで、まるで歩こう会のように自身の健康管理を計ることができます。また地域をより深く知ること自然の多様性や奥深さをも知ることができます。

さて、研修医の先生方にはそれぞれの思いと将来の御計画があるかと考えます。医療の発展に寄与するような研究や臨床面でご活躍されること、あるいは地域の医療に関わり地域住民の健康維持のために汗をかくこと等それぞれ多様な生き方の選択があるかと思ひます。まずは体調を管理され、自身の持てる力を遺憾なく発揮し、人間関係を築き充実した研修生活を過ごされることを期待いたします。



女性医師の勤務環境の整備に関する 病院長、病院開設者、管理者等への 講習会が開催されました。

令和5年9月30日、アバローム紀の国で上記開催されました。来年4月から、医師の時間外労働規制が始まります。法改正に基づき、今年5月に行った「施設長、部署長へのア



ンケート」の結果報告、三重県立総合医療センター理事長の新保秀人先生の『医師の働き方改革当院の現状と「女性が働きやすい医療機関」認証制度について』の講演を聞き、4人のシンポジス

トと共に活発に議論されました。

働き方改革は待たなし、女性医師の割合は増加の一途です。いかに医療の持続可能性を継続させるか、話し合われました。当日は、行政の担当者8名が参加しました。各病院長らが保育所、病児保育所、その運営方法の要望を熱く訴えました。明日の医療の担い手である皆様のご意見も是非賜りたく存じます。

今後の医療人が安心して、情熱的に仕事に邁進できる環境を作るべく、医師会も意見集約、検討会、勉強会など開催していきます。奮ってご参加ください。

来年1月20日(土)15:00～和歌山県民文化会館6階特別会議室Bにて若手の医師を対象に、「医師が時代と環境に



適応する術」と称して、関西医科大学総合医療センター 漢方外来の梶本めぐみ先生をご招待して、ご講演いただき、皆様のご意見ご要望を承りたく存じます。子育て中、婚活中、妊娠中、育休中の男性女性医師のご参加をお待ちしています。託児希望の方は和歌山県医師会に事前申し込みをお願いします。

人生何が起きるかわかりません。
人との出会いもあれば、別れもあります。
家族がずっと順調とは限りません。
そんな中で、我々医療人は、しなやかにキャリアを積み上げていきたいものです。
この女性医師支援懇談会では、明日に向けてのヒントがあります。
一緒に語らしましょう。
男性女性問わず、ふるってご参加ください。

令和5年度
地域における女性医師、育休中の医師(御夫婦)支援懇談会
和歌山県医師会 女性医師支援懇談会

～ 医師が時代と環境に適応する術 ～

日時 令和6年1月20日(土) 15:00～16:30
場所 和歌山県民文化会館 6階 特別会議室B
対象 女性医師(特に産休、育休中の医師) 男性医師も歓迎です
妊娠・婚活中の女性医師も女子学生と御父兄も歓迎です
一緒に懇談しましょう!

【 総司会会 】 和歌山県医師会理事 濱田 寛子
15:00～ 開会挨拶 和歌山県医師会会長 平石 英三
15:05～ 【 座長 】 JOYJOY meeting 世話人代表
和歌山労災病院 呼吸器内科部長 辰田 仁美

講演
～ 医師が時代と環境に適応する術 ～
関西医科大学総合医療センター 漢方外来
梶本 めぐみ

梶本 めぐみ先生
ご略歴

- 2000年 関西医科大学医学部卒業
同大産科学婦人科学教室 入局
- 2005年 京都府立医科大学三谷和男先生に師事
漢方研修開始
日本産婦人科学会産婦人科専門医取得
- 2012年 日本東洋医学会漢方専門医取得
- 2012年～関西医科大学滝井病院産婦人科漢方外来担当
- 2020年 日本東洋医学会 漢方指導医取得

所属学会 日本産婦人科学会
日本東洋医学会
日本女性医学会
認定資格 産婦人科専門医
日本東洋医学会漢方専門医・指導医
女性ヘルスケア専門医